

4017

流行節 本日退治

特 11

754



骨皮道人著

東京 扶桑堂 發行

074332-000-4

特11-754

支那退治日本流行節

骨皮道人/著

M27

CEI-1555

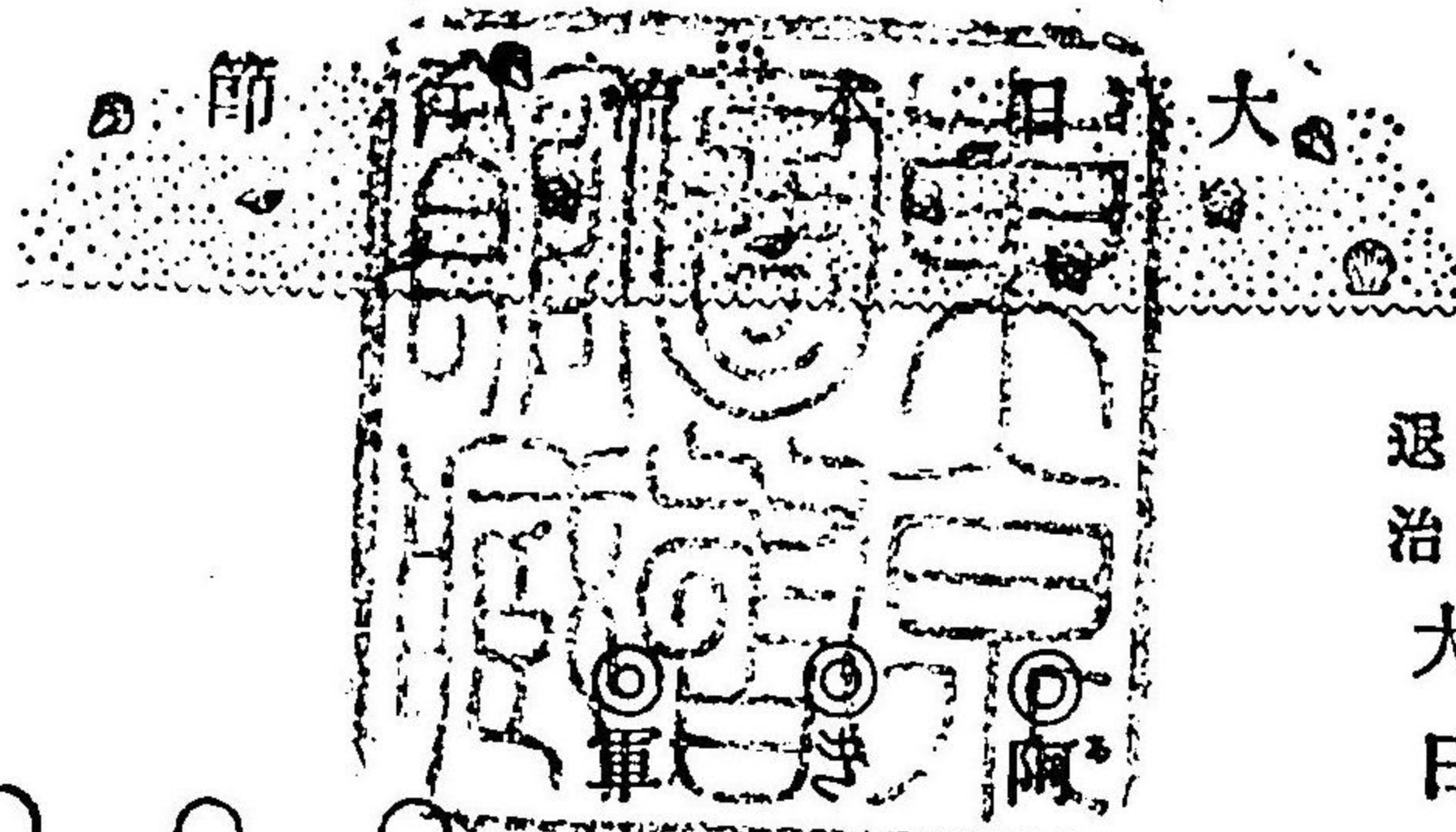




支那大日本流行節自序

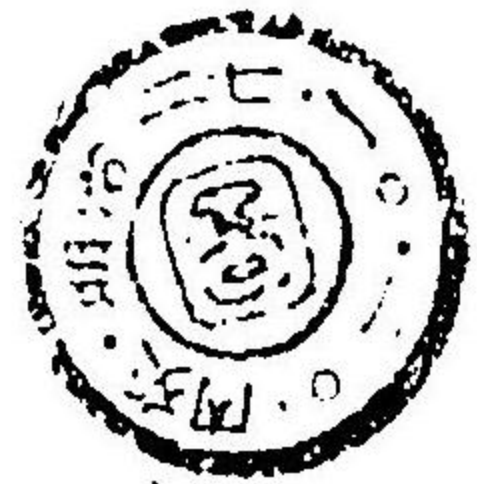
支那は大國なり自ら誇つて四百餘州と云ふ成程四百餘州に相違無かるべく又土地の廣きに隨つて人口も多し自ら誇つて四億万と云ふ如何様四億万に相違あかるべし然れども其國や未開其人や野蠻故に四百餘州は他の四十州にだも及ばず四億万は他の四百人にだも及ばず若夫れ四百餘州四億万ありと雖も他の十分一の力にも及ばずとすれバ其大なるや無用の長物のみ其多きや無益の穀潰しのみ何の誇るまとか之れあらん誇れば則

持11
754



支那大日本流行節
退治大日本流行節

目録



○進軍の歌	○ちやんく退治	○来れや来れ	○房多羅經	○んらい節	○歌
一章	二章	三章	一章	數章	

はち黑暗の恥を却つて明々地へ持出すと一般なるべし、
 豈に馬鹿く敷話しならずや、今や大日本帝國の無用
 の長物無益の敷潰しを退治するに當つて、百戰百勝其北
 京城頭に日章旗を翻す亦將に近きに在らんとす、誰か帝
 國万歳を唱へざらんや、而して此帝國万歳を唱ふは是れ
 帝に大日本帝國の光威を海外に輝かすのみに非ず、又
 東洋一般の幸福のみ、諸君請ふ祝せよ、諸君請ふ賀せよ、道
 人歡喜の餘り支那退治の歌を作つて以て紀念と爲す、

時に明治廿七年第九月中旬日本陸
 兵が平壤に於て凱歌を唱ふるの日
 骨皮道人識

大日本流行節

○凱旋の歌

三章

◎當世流行滅茶く節

數章

◎壯士唄愉快節

五章

◎縁かいな節

數章

◎五十音かぞへ歌

五十章

支那退治 大日本流行節目録終

大日本流行節

支那退治 大日本流行節目録

骨皮道人著

◎阿房多羅經

エ、一、恐レ一ながら勿体ながら、申しあげます
 チヤンく退治の阿房多羅文句が、何があんで御
 座りませうなら、口から出まかせ、上臑下臑打ッつ
 かり放体れ氣に障らは御免下され、御意に叶へば
 お譽め下され、手前勝手の阿房多羅坊主は同じ坊
 主の仲間だけれとも、ちやんく坊主のいくぢ無
 しとは、お月様にスツボン雪と炭ほど大層お違ひ

◎阿房陀羅經

大日本流儀

で、まける事が大嫌ひ勝つ事が大好き、まづい物なら真平御免よ、旨い物なら何でもよろしい、ビールにブランド、へべれけにあらうが、團子に牡丹餅、頬邊打たりよが、其様な事た坊主は呑湖のしやア突く(ボク)く(く)く(く)しやア突く序にお饒舌りしませう、扱ても當今は日清戦争、日本勝利でちやんく敗北事の起りを尋ねて見よなら、飴屋の本家の朝鮮國にて、東學黨とか正覺坊とか妙なる名前の暴徒が起りて、唐人同士の内輪喧嘩がだん(く)持ちやがり、二ツ進も三ツ進も始末におへない、ソコ

大日本流儀

で隣國のちやん(く)坊主に助太刀たのんだ、是が抑々飴屋の失策(ボク)く(く)く(く)元々ちやん(く)は朝鮮が取たい、平常のあつかひ孫店同様、面と向ッちや何と云ツたか、蔭ちや立派に自己の属邦た焼て食はうと又た煮て食はうと、自己の勝手にどうでもなるぞと、自分免許の杓子定木を、無暗矢鱈と振廻してけつがづた、處へ助太刀頼んだ事ゆゑちやん(く)坊主は天の與へどべ、ラボウに喜び、豫て日本と約定したのも忘れて仕舞たか、夫とも横着か、ウンともスウとも日本へ云はずに、己が勝手

大日本流節行

に鉄砲持たせてちやん坊主をズン〜繰出した
(ポク〜〜素早い日本は斯と聞くより、不埒
あちやん〜捨ては置ぬと、矢張兵隊をズン〜
繰出し、事の仔細を尋ねて見れども條約違變を掛
合みめども、懲に目がくれ理も非も滅茶苦茶餘計
ふれ世話と云はないはかりに、竹に木を接ぐ無法
な挨拶、ソコで日本も愈々立腹賣られる喧嘩ハ買
はずにや居られぬ、ナニ糞ちやん〜見損あつと
か、日本ハ神國神の御末の尊き國たぞ、殊に當節ア
富國強兵、文明開化と東洋に誇るは、自慢ぢや無け

大日本流節行

れど日本ばかりだ、大和魂見度は見せやう、サア來
い來れと筒先き揃へてドン〜打出た(ポク〜
〜)イヤハヤちやん〜驚くまゝい事かよ、初
めの勢ひ何處へか逐電ブル〜ガタ〜地震の
申し子か、蒺藋のれ化か、瘡ふるひか、急にブル〜
震へ出したが、其時あやまりや何の事たあいのに
小癩お腕だて蟻螂見たよなチヨツカヒ出たで、
以後の見せしめ懲して遣らんと、海軍陸軍共に意
氣あみ、豊嶋沖では軍艦を生捕り、之に随ふ運送船
をば大砲で打ッ拂ッて忽ち沈める、夫から陸軍は

大 日 本 流 行 節

成觀最寄や牙山の近邊ウヨくして居る慈姑天
窓を目掛けて打込み、一人や二人は面倒臭いと地雷
火仕掛けてズドンと一列丸で兩國の川開き見た様
で、生れた人間の天上するのは中々愉快だ(ボク)く
く()是で懲なきやどうかして居る、馬鹿か間
拔かヒヨットコか頓痴機か、但しは老碌か乃至は
狂人か或ひは無神經か(ボク)く()扱ても其
ときちやんく坊主のマゴつき鹽梅狼狽鹽梅、鉄
砲も軍旗もあつちも入らない、命さへありや是が
寶と、命からく一生懸命、先方が強ひから逃るが

大 日 本 流 行 節

勝だよ、是でも國には可愛い女房や餓鬼もある身
だ、僅かか賃錢で命まぢや遣れない、鉄の草鞋を持
て来りや宜かつたに、此様な木履ちや駈るに不便
だ、寧ろ跣足でスタコラヨイヤサ(ボク)く()
いさや大將一足れ先へ御免ください、イヤく自
己から先に駈らう、者共サア来い此路逃げろ、逃た
鰻に小さいは無けれど、人間の逃げる時や小さい方
が徳だと、夢の夢中で鉢合せしあがら、其場は逃
げたが此處は山中、北か南か西か東か方角も分ら
ず、れ負に空腹最早我慢にも足腰が立たない、此様な

大 日 本 流 行 節

兵隊や此様な大將が、縦ひ百万千万來たどて、艦兵
衛の種詩きノホムンで見居る案山子も同様(ホ
ク) 其後軍艦の北洋艦隊が敵き討つ氣
で威海衛に居るぞと、小耳に狭んだ日本軍艦、此奴
も刷毛ついで碎いて遣らんと、速力はやめて押か
け見たれば、是はどうだ以日本に來れちや、逆も堪
らんと、尻に帆かけて矢ッ張りスタコラ、處で餘儀
あく砲臺打ち毀して一先づ休戦、夫から彼奴めは
怖氣が附たか、姿も見せなきや影も見へな以(ボク
く) (ナントちやん) (どうしたものだよ

大 日 本 流 行 節

強情はるにも事によるぞへ、イクラ逃ても仕舞に
や取捕まる、今度日本に取捕まるものなら、夫はろ
大變命とられた計りぢや濟な以、國まで取られて
大恥さらした、其時後悔したとてダメだよ、夫れよ
りや日本のれ慈悲に預り、今の中に早く謝罪らな
以カ！此ちやん) 坊主メ！チーン(ボク) (ボク

◎ きんらい節

○ 卑怯未練と云はりまが儘よ。日本兵士にやかあ
えな。

大日本流節行

耳に、ドン、聞へる、鉄砲まつあど違へばな
命早くサツサと逃ないかいあア、ペラボウ
に、ノ、ソ、ソ、馬鹿ぢやれまへんか、
○日本刀とは名高いものよ。腕もすゝれた人ばかり。

イヤに、ピカ、光る、刀、それで切られぢや堪
らない、鍛へば正宗下坂かいなア、見てもゾツ
とする、怖いぢやおまへんか、
○頑固姑息で理も非も知らず。然してお負に智恵
がない。

大日本流節行

馬鹿なぢやん、止せは、宜いに、いつまで強
情はつて居る、早く頭をさげないかいなア、命
がなくなるぞ、阿房ら去いぢやおまへんか、
○出逢ふ軍艦豊島の沖に。忽ちまけたる支那の兵
船も、ズン、海に、沈む、澤山出来たは土左衛
門、みれでもまだ、懲ないかいなア、馬鹿に
も程がある、ペラボウぢやれまへんか、
○止せは宜いのに日本を相手、恥を知らない無鉄
砲。

まけた成歡、牙山、いくさ、元々意氣地のない兵

士、鉄砲も軍旗も捕られたかいあ、大將もさ
うりく弱いやおまへんか、
○馬鹿なちゃんく身形を見て。蠻野きはまる
未開國。

豚の、やうさ、尻尾さげて、何處が尻やら天窓や
ら、サツパリ分らぬ蛆虫かいなア、あれでも人
間か、不思議ぢやおまへんか、
○弱い腕前知れそなものよ。扱ても野蠻な支那の
國。

出ても、く、いつでも、負る、夫でも日本に勝氣

かへ餘ッほど間拔あちやくかいな、此奴向
ふ見ず白痴ぢやおまへんか、
○文明開化と東洋に誇る、今を日の出の日はん國
ドシく、進み、攻込む、兵士、大租魂外にない、一
人で十人相手にするぞ、腕前みせて遣ろ、強
いやおまへんか、

○陸と海とに勝利の日本外に類なき大和魂
どうだ、ちやんく、降参したか、初めの勢ひ何
處へやら、その後ちつとも出て來んかいなア、
命がおまいのか、卑怯ぢやおまへんか、

○向ふ處に敵なき日本。うれを知ッてか知らずにか。

十四

チイ、く、バア、く、何をぬかす、意氣地ふい癖
馬鹿お奴、日本に手向ふ不所存ものがア、其態
ア見たが宜い、不笑いちやおまへんか、

○富國強兵名だかい日本。みれに手向ふ無法もの
肩に、鉄砲、腰に、刀、いのち惜まぬ大和魂、誓する
奴ありや容赦はないゾウ、誰でも來い、く、
ゝゑらいちやおまへんか、

○軍上手の日本の國は。まけた事なし昔しから。

外に、類なき、日本の、氣象、ソレと云ツたら直ぐ
一致、とても誰でも叶はんかいなア、現在支那
を見よ、逃げたちやおまへんか、

○支那は弱いと聞ては居たが。日本から見りや赤
ん坊。

日本と、支那と、くらべて、見れば、逆も似つかぬ
雪と炭、比べものには成らふいかいあア、支那
は弱いく、さうちやおまへんか、

○世界万国いづれの人も。日本を譽めあひものは
ない。

大日本流節行

日本つよい論より証據豊島海には船を捕り
成歡牙山も勝たぢやあいかア西洋人も舌を
巻くつよいぢやあまへんか

○元は朝鮮變亂ゆゑに味暗をつけたる支那の國
日本戦争意外勝利ちやん坊主も大閉口
丸きり藥罐のゆで鯛かいなア手も足も出な
い愉快ぢやあまへんか

◎軍歌

○來れや來れ

來れや〜いさ來れ 日本は亞細亞の東部にて

大日本流節行

不羈獨立つの帝國ぞ 文化普まねき強國ぞ
此の獨立と此の文化 若しも妨ら奴あらは
古來鍛たへし日本刀 ドシ〜切て切巻れ

○其二

來れや〜いさ來れ 日本は文明開化こく
武でも文でも持て來 決して一步は譲らぬぞ
此の文明と此の勇武 若も邪魔する奴有は
古來鍛たへし日本刀 ドシ〜切て切巻れ

○其三

來れや〜いさ來れ 日本は國富兵強よく

大日本流節

枝も鳴らさぬ時津風。 諫鼓は常に苔蒸せり。
此の泰平の此御代を。 若も誇れる奴あらば。
古來鍛たへし日本刀。 ドン 切て切巻れ。

○ちやんく 退治

ちやんく 坊主よちやんくよ。
汝も人間の仲間なら。 天窓は豚の形ちでも。
耳も有べし目も有う。 耳若あらば能く聞よ。
目若有なら能見よや。 日本は東洋に孤立して。
文明開化の國あるぞ。 日本は世界に名も高。
旭輝よく神こくぞ。 然かるに汝ち畜生に。

大日本流節

殆んど近き身を以て。 貴賤上下の別知らず。
貧富強弱猶は知らず。 如何に無識と云乍ら。
氏神よりも大切つな。 日本に手向ふ不心得。
親に不孝と同やうぞ。 一時も早く罪を謝せ。
若も其罪謝せされば。 掛け替のなき其首を。
豚尾と共に刎るべし。

○其二

ちやんく 坊主よちやんくよ。
汝ちやんく能聞よ。 汝ちやんく能思へ。
世界は廣く國多はし。 其の國多き其の中に。

大日本流節行

土地は開ず人は馬鹿。人の顔して人でなし。人の面獸心恥ぢ知らず。人の恥辱も顧りみず。年々年中奴隸主義。縦豚尾と笑はりうが。平氣の平左の無膽力。其様お腐つた了簡は。即ち東洋の面汚し。グウも出のは知た事。

國の形ちで國でなし。義理や人情は打棄て。只利と慾に目も眩み。行突つたり他國ふて。縦畜生と云りやうが。上わの空おる無神經。夫でも人と思はるか。汝ち獨りの恥あらず。然バ日本に攻られて。汝ち今度を紀元とし。

大日本流節行

正しき人に立ち戻れ。強き日本の兵以つて。打碎ぐべし覺悟せよ。

○進軍の歌

進めや日本兵。己で陸戦と海戦に。軍器は素より不充分。軍器揃はず兵弱わく。只大法螺を吹き立て。一ツ國にさる宰相の。

若此異見を聞されバ。汝んちの國は粉微塵。飽まで進めよ日本兵。敵の手並は見たるぞ。兵士は素より無膽力。争で日本に勝得べき。胡魔化しの外手段無。名前ば李鴻章あれど。

大日本流節行

實は和口な奴ならず。尤とも老碌した故か。兎角見當違ひして。失敗事の數度あれバ。帝ども大そう逆鱗し。豫ねて授けし勳章も。其罰として剝取られ。氣の利かぬ事夥多し。宰相でさへ此の始末。其の下に居る諸役人。即はち十把一からげ。幾何思案を爲はとて。無智慧の出答はあし。青菜に塩か蛭にしほ。只じはくと打萎れ。何の思案も出はあそ。小首拾りて腕を組み。豚尾頭を下げるのみ。危うき處は避べしと。君子を氣取可笑さま。

大日本流節行

然は軍議を開くとて。甲乙丙丁みなとにも。互ひに顔を眺めつゝ。股倉膏藥如何にせん。斯る乱脈國あれば。日本から見や赤坊。彼れは元來國廣ろし。彼れは元來人多ほし。其の國廣く人多ほき。土地を日本へ取成は。日本は亞細亞を專有し。東洋は残ず日本なり。扱も愉快な此の戦さ。扱も愉快あ此の勝利。進めよく皆な共に。進でベキンを奪取り。旭ひの御旗を泰山に。押立るのは目の前り。進しめやく日本兵。飽まで進めよ日本兵。

大 日 本 流 行 節

○凱旋の歌

祝へや〜皆な人よ。今日は何成吉日ぞ。
強情張じちやん〜も。流石日本に敵し得ず。
彼れの海兵閉みうろ。彼れの陸兵降さんし。
全たく日本の太勝利。今日日本に勝つぞ。
北京に立たる日章は。世界萬國輝々やけり。

○其二

祝へや〜皆な人よ。今日は何成吉祥ぞ。
ちやん〜坊主と戦端を。開らきし以來敷ヶ月。
海に向へは海に勝ち。陸に向へは陸に勝ち。

大 日 本 流 行 節

百はつ百ちう日本銃。百せん百せう日本兵。
愈々てきを滅亡して。凱旋する社目出度けれ。

○其三

祝へや〜皆な人よ。今日は何成吉慶ぞ。
我の國威に傷つけし。ちやん〜坊主を打拂。
我の文化を妨たげじ。ちやん〜坊主を打懲。
遂に降伏させとるは。海外万里の果までも。
光り輝やく其の譽れ。古今未曾有の快事也。

○當世流行滅茶〜節

○支那のちん毛ッ唐は餘ッほど間拔だよ。早く謝

大日本流節

罪りや造作もあいのに命を滅茶めちや。チャカラ
ラチャンく。

二十六

○日本の人民は餘ッほど宜い威勢。なんでもちや
んく退治ろチウて。きはひ込む滅茶めちや。チ
ヤカラカチャンく。

○日本の軍人は餘ッほど氣が揃ふ。捨ては置ない
ちやんく。チウて。打拂ふ滅茶めちや。チャカラ
チャンく。

○日本の軍艦は餘ッほど強ひもの。支那の要害打
つべしチウて。砲臺をめッちやめちや。チャカラ

大日本流節

カナヤンく。

○支那の袁世凱は餘ッほど無法者。日本と戦争を
始めろチウて。しくじる滅茶めちや。チャカラカ
チャンく。

○支那の葉志超は餘ッほど腰ぬけた命とらなち
や。開口チウて。逃歸る滅茶めちや。チャカラカナ
ヤンく。

○支那の李鴻章は餘ッほど無鉄砲。イクラ負ても
平氣だチウて。兵を出す滅茶めちや。チャカラカ
チャンく。

大日本流節行

○支那の李鴻章は餘ッほど馬鹿な奴。飽まで日本に勝つ氣だチウて。又たまける滅茶めちや。チヤカラカチヤン。

○李鴻章の軍器は餘ッほど間違ひだ。負るはもとより承知だチウて。差圖する滅茶めちや。チヤカラカチヤン。

○日本の海陸軍は餘ッほど強いもの。陸でも海でも勝利だチウて。進みゆく滅茶めちや。チヤカラカチヤン。

○支那の兵隊どのは餘ッほど弱虫だ。戦争する度叶はんチウて。逃て行く滅茶めちや。チヤカラカチヤン。

○支那の弱虫連は餘ッほど困りもの。人にや構はぬ逃げ出せチウて。スタコラヨイヤサ。チヤカラカチヤン。

○支那のちやん坊主は餘ッほど臆病者。日本に來られちや堪らんチウて。逃出す滅茶めちや。チヤカラカチヤン。

○朝鮮の大院君は餘ッほどゑらいもの。政治改良第一チウて。着手する滅茶めちや。チヤカラカチヤン。

○朝鮮の大院君は餘ッほどゑらいもの。政治改良第一チウて。着手する滅茶めちや。チヤカラカチヤン。

大 日 本 流 行 節

ヤン

○朝鮮の改革は餘ッほど小氣味よい。閔族一門行けないうて。免職する滅茶めちや。チヤカラカチヤン

○支那の戦さは餘ッほど無茶なもの。命あつての物種チウて。皆あ逃る滅茶めちや。チヤカラカチヤン

○支那の大將は餘ッほど卑怯もの。兵隊なんぞにや構はんチウて。一人逃る滅茶めちやチヤカラカチヤン

大 日 本 流 行 節

○支那のちやん坊主は餘ッほど妙な形。人が笑ても平氣たチウて。長い毛をブラ。チヤカラカチヤン

○支那の兵隊は餘ッほど太べら坊にげる夜路が眞ッ暗チウて。提灯をブラ。チヤカラカチヤン

○日本の松崎大尉は餘ッほど豪傑だ。此川位は平氣だチウて。遂に渡る安城渡。チヤカラカチヤン

○大島陸軍少將は餘ッほどあらい人。大和魂。此處

大日本流節行

だぞチウて。敵を攻む滅茶めちや。チヤカラカチヤン。

○支那のちやん。坊主は餘ッほど向ふ見ず。イクラ負ても吞湖じやアで。出て來る滅茶めちや。チヤカラカチヤン。

○支那の人間。一体餘ッほど大まぬけ。何でも慾はり一方チウて。理も非も滅茶めちや。チヤカラカチヤン。

○支那の軍艦。餘ッほど弱い奴。大砲打たれちや。堪らんチウて。逃げ込渤海へ。チヤカラカチヤン。

大日本流節行

○支那の海陸兵は餘ッほどいくち無し。日本が來たなら直にげチウて。号令も滅茶めちや。チヤカラカチヤン。

○支那の分捕銃器は餘ッほど數多い。これも日本の名譽だチウて。擔ぎ來る滅茶めちや。チヤカラカチヤン。

○朝鮮の東學黨は餘ッほどはしッあい。ソラコソ日本が出て來たチウて。隠れる滅茶めちや。チヤカラカチヤン。

○日本の海軍をよつほど怖いもの。支那の軍艦の
 がすなチウて。水雷火で滅茶めちや。チヤカラカ
 チヤンく。
 ○支那のにげた兵隊よつほど困つたる。食物食は
 ずで弱つたチウて。餓へ死ぬ滅茶めちや。チヤカ
 ラカラチヤンく。
 ○牙山で追はれたちやんくよつほど大弱り西
 も東も知れないチウて。山の中を滅茶めちや。チ
 ヤカラカラチヤンく。

◎壯士唄愉快節

○行けよ行け皆を行けく支那征伐に。
 彼は亞細亞の大國ど。自慢で居れども其實は只
 うの土地の廣きのみ。國は丸きり野蠻國人は丸
 きり無智の民。世界萬國いづ方も文化を競へる
 今日に。兵事文學夢にたも知らぬが佛が極樂か
 政治はカラキ滅ちや苦茶。法律規則も更にな
 く。賞罰とても出放題。李鴻章をは始めとし。之に
 續ける諸役人。只とる事を專一に賄賂は公然行
 なはれ。頑固姑息の人民を欺しみんでは金を取
 る。腐敗官吏の面にくさ。斯る不潔の支那國をそ

の儘捨て置くときは。我國進歩の妨げを早く打てく打ち拂へ。愉快ぢやく。

○其二

○行けよ行け皆あ練出せ支那征伐に。彼は野蠻の骨頂ぞ。彼は無用の長物ぞ。往古を仁義を口ににして。少しは人にも似て居たが。其後だんく退しさり。今では人三化七ぞ。乞食のやうな形をして。天窓に尻尾をテラ下て。物の道理も辨まへず。慾心ばかりを突ッはらせ。豚の小屋にも劣りたる。不潔の家屋に生息す。夫でも命がつか

なけぬと。果は他國へ出稼ぎし。國の辱をば萬國へ晒しあるくは何事ぞ。其様な畜生同様の根性なるに小癢にも。我が帝國の意に背き手向ひするほど不埒なり。イザ此上は腕づくぞ。イザ我々の腕を見よ。海に鉄艦陸に兵。肩に砲銃腰に太刀。戦争の道具は何ありと打も切るのも自在なり。愉快ぢやく。

○其三

○進めよや皆な進めよ支那征伐に。今東洋に赫々ど。光り輝やく大日本。海に軍艦陸

兵も充分備はる強國ぞ。殊に固有の大和魂。殊に
手練の日本刀。人もし觸れば人を斬り馬もし觸
れば馬を斬る。古來勇武の國として。万国ともに
恐怖する。類ひ稀なる尙武國。何國と戦争したり
とて。敗を取りたる例となき。夫を知つてか知ら
ずにか。無智蒙昧のちやんく。飛で火に入る
夏の虫。我が帝國を輕侮して。力くらへを爲さん
とは。扱も無法なちやんく。よ。命知らずのちや
んく。よ。是ぞ世に云ふ首目蛇。命が惜くは無
ならは腕を揮ふて來れかじ。汝ち如きの蛆虫が

縦ひ何萬來ればとて。何のビクつく事やある。イ
チ來い來れイチ來れ。來れば忽ちみなごろし。南
京北京も攻め取て。泰山頂上日の御旗。懸へすの
も亦た面白し。愉快ちやんく。

○其四

○いさや行け皆な行け。ちやんく退治。
日本人には骨がある。日本人には智慧がある。ち
やんく坊主の臆病とは雲泥万里の違ひなり。
ちやんく國は大なれど。大あるのみにて意氣
地なき。日本の國は小なれど。陸軍海軍みな揃ひ。

大日本流節

海戦陸戦どちらでも戦争にかけては拔目なし
ちやんく坊主は多けれど頭の数が多きのみ
何處と戦争またしてもつひしか勝たる例しあ
る。日本は人数少ないが各々持たる大和魂一人
に千人向ふとも片ツ端から捻ぢ伏せる。ちやん
く坊主の持つ劔は大根も切れない生ツくら
五月人形の鐘楯にも遙か劣つたコケおどし。案
山子の持てる弓よりも役に立たぬ道具なり。日
本人が腰に指す。世界に無類の此刃ぬけは玉散
る如くなり。夏さへ寒き氷ありいさや來れよ

大日本流節

さ來れいさやちやんく遣て來い。相も替らず
無茶くやちに。盲目滅法來るあらは。論は無駄か
り其の証據生首あらべて見せるべし。愉快ぢや
く。

○其五

○行けや行け皆な行けくちやんく退治。
汝ちのやうな腰ぬけで。汝ちのやうな弱虫で何
で戦争の出來得べき。ちやんく坊主よちやん
くよ汝ちのやうな瘦腕で。汝ちのやうな臆病
で何で日本に勝得べき。汝ちば豚のお化あり。汝

ちば慈姑の仲間なり。人間並の天窓せず。人間並の着物さず。人間並の智慧もなく。お負に野ッ放六ベラボウ。是も造化の戯れか。同じ世界の人間で餘ほど不思議の姿なり。箸にも棒にも掛らぬ。始末に負へないちやん。よ。其襟おトンチキ頓馬めが。恐れ多くも日本の文化開明強國に無禮はたらく其不埒。うれゆる豊島又た牙山。其外成歡威海衛。又た義州に平壤に。ドシ。打て打まくり。分捕銃器は何万個首をチヨン切る何万人。うれでも猶も懲さるは随分阿房の極度

なり。餘ッほど大馬鹿三太郎。イ。此上は陸と海。双方せめて攻免潰ぶし。ちやん坊主の其首を美事ならべて見せるべし。進めよ。日本兵。進んで彼をみなごろし。四百餘州を奪ひ取り。日本の國威を海外に輝かす。お愉快なれ。愉快ちやく。

◎縁かいな節

○朝の鮮は。日本のお蔭で朝鮮は。邪魔な支那をも追ひはらひ。政治改良ゆきと。喜ぶ。大院君かい。

○ちやんくの無氣力

○戦する度へユたれて命からく逃て行くちやんく坊主のいくち無し。偶にハ勝ても見んかいな。

○李鴻章

○戦争する度敗北し。腕組みしとる李鴻章人にや云はねど苦しさう。しかめた面つき狎かいな。

○李鴻章の狂氣

○度々の不首尾に四方から無暗にせめる李鴻章遂に神經狂ふとは扱ても困つたもんかいな。

○李鴻章の瘦我慢

○目的はづれた李鴻章まけても矢張やせ我慢例の大法螺吹き立てし出した布告の文かいな。

○支那の弱武者

○支那の弱武者ブルくと震へながらに手向ひて砲音きいてピツクリしついた尻餅どんかいな。

○支那兵の扮装

○支那の兵士の扮装は野蠻極まるむかし風。ダブくしたる着物きて脊には大きな紋かいな。

○ちやんくの歸國
○國の騒動きくからは。迎も居られぬ日本の地。急に家財を賣りはらひ。歸る南京さんかいな。

○日本の進軍

○進めくの号令に。先きをあらさふ日本兵。さすかの敵も寄りつけず。響く大砲のどんかいな。

○其二

○飽まで進む日本兵。敵も今更大弱り。齒きしりしても無駄な事。皆お骨れり損かいな。

○新聞紙

○又も勝利と号外を。以うぎ摺出す新おん社。人のみころも勇み立つ。響く賣子の鈴かいな。

○日本兵士の優待

○支那の兵士に引かへ日本陸軍海軍も。みんな手當のゆき届き。運ぶ牛肉パンかいな。

○大鳥公使

○大院君をは護衛する。日本公使の義侠心。向ふ韓兵造作なく。拂ふた大鳥君かいな。

○日本兵の凱旋

○成歡牙山をおとしいれ。日出度く祝す日本兵。歸

大日本流節行

る仁川賑はしく出来た凱旋門かいな。 四十八

○松崎大尉

○兵を指揮して勇まきく。渦まき水に身を投じ。遂に成歡攻め落す。大尉松崎君かいな。

○豊島の海戦

○止せは宜いのに支那の船。日本に手向ひ敗北す。そのとき急に千五百。出来た土左衛門かいな。

○支那内輪もめ

○開戦主義と和睦主義二派に分れた支那政府。まけるに附て内輪もめ。詰り水かけ論かいな。

○日本刀

○命おしみのちやんくは。逃るより外術はあし。兵士を見ればブルくと。怖がる日本の劔かいな。

○威海衛の進撃

○日本軍艦あくまでも進む速力威勢よく目指した敵地の威海衛にけたは北洋艦かいな。

○日本兵の突進

○支那の弱武者追ひはらひ。だんく攻る日本兵。勢ひ破竹の如くふて。進むべきの邊かいな。

大日本流節行

大日本流節

○又も日本の勝利ぞと。勇み立たる人々の小説種史はかへりみず。讀むは戦争の本かいな。

◎五十音かぞへ歌

●アの字とセー 相も替らずちやんくはちやんくは。負てもくまだ懲りぬ。オヤ情の強

○イの字とセー 命ばかりはお助けと。お助けと手を合したる可笑しさよ。オヤ馬鹿くし。
○ウの字とセー 上から下まで氣が揃ひ。氣がそ

大日本流節

ろひ敵をくちくは大和魂オヤ世界一。

○エの字とセー 縁は異あもの味あもの味なも
の朝鮮たすける日本義氣。オヤ感服だ。

○オの字とセー おんあ姿でごまかして。ごまかして。漸くにげたる業志超。オヤ卑怯だね。

●カの字とセー 傘と提灯手にさげて。手にさげて。戦争に出るとは馬鹿くし。オヤ開けな

○キの字とセー 膽を潰してちやんくはちやんくは。腰を抜かした哀れさよ。オヤ泣き出した。

大日本流節

- クの字とセー 國の恥をも身の恥も身の恥も。
- 知らぬちやん 無神經。オヤ御もつとも。
- ケの字とセー 見當ちがひの李鴻章。李鴻章い
まさら後悔へそを噬む。オヤ毫碌か。
- コノ字とセー 小氣味よきはど勝とふし。かち
通し。殘す譽れの日本兵。オヤお手柄だ。
- サの字とセー さても不便な支那兵よ。支那兵
よ。兵糧が不足で働けぬ。オヤ動けない。
- レの字とセー 支那は名題の野蠻國。野蠻國。日
本にくらべりや雪と炭。オヤ大ちがひ。

大日本流節

- スの字とセー 數度の戦争にみな負て。皆おま
けて。今は手も出ず足も出ず。オヤなさけあい。
- セの字とセー 世界に威光を示めさんと。示め
さんと。日本兵士の勇さましき。オヤうれしい
ね。
- ソの字とセー 揃ふ足ぶみ。呐喊。ときのこと。次
第に攻め入る日本兵。オヤいさましや。
- タの字とセー たかの知れたる支那の國。支那
の國。降参させるは目のあたり。オヤお樂しむ。
- チの字とセー 忠義に凝りたる日本人。日本人

大日本流節

死すとも退ぞく事はなし。オヤ頼母しや。

○ツの字とせー つかれ果たる支那の兵。支那の

兵。見るも衰れぬ虫の息き。オヤ自業だよ。

○テの字とせー 手がら高名あらはすは。顯はす

は身の爲めばかりか國の爲。オヤ其通り。

○トの字とせー とぎの聲きく度毎に。度毎に退

まさりする支那の兵。オヤ又たまけた。

●ナの字とせー 名に負ふ日本は昔しからむか

じから鍛へあけたる尙武國。オヤ腕じまん。

○ニの字とせー 人足あつめた兵隊を。兵隊で。日

大日本流節

本に勝てやう筈なかい。オヤ無論だね。

○ヌの字とせー 抜く手も見せず。首刎る。首は

ねる。氷あさむく日本刀。オヤ小氣味よし。

○チの字とせー ねらひ外さず。ドンと。ドン

くと。打倒したる支那の軍。オヤ皆ごろし。

○ソの字とせー 野ん氣なちやんく。各自に。各

自に。出稼ぎする氣で居る様子。オヤ阿房らし

し。

●ハの字とせー 破裂丸食ッてちやんくは。ち

やんくは。逃る暇なく粉微塵。オヤはち當り。

大日本流節

○ヒの字とセー 光る電ひゞく雷ひゞく雷ちや
 んくピツクリ目をまわす。オヤ腰ぬかす。
 ○フの字とセー 吹くも勇ま志喇叭の音。喇叭の
 音。日本の軍勢突進す。オヤ強いふと。
 ○ヘの字とセー へマお陣取り支那兵は。支那兵
 は。いつも日本に拂はれる。オヤ知れた事。
 ○ホの字とセー 外の國とは事ちがひ。事違ひ。日
 本は勇武の兵ばかり。オヤすゝみ行く。
 ●マの字とセー マゴくする中へキンまで。北
 京まで取られぬ用心するが宜い。屹度取る。

大日本流節

○ミの字とセー 美事な腕前日本兵。日本兵西洋
 人まで舌を巻く。オヤ無理もかい。
 ○ムの字とセー 向ふ見ずにも程がある。程があ
 る。日本に勝うとは夫や無理だ。オヤとても駄
 目。
 ○メの字とセー 面倒くさいと地雷火で。地雷火
 で。支那の兵隊をみなごろし。オヤ大勝利。
 ○モの字とセー 勿論開けぬ國ながら。國ながら。
 理も非も分らぬ滅茶くちや。オヤ野蠻だね。
 ●ヤの字とセー 槍が降らうが火が降ろが。火が

大日本流節

降ろが。なんの恐れぬ日本兵。オヤ大和魂。
 ○イの字とセー 以後の見せしめ懲らす爲め。懲らす爲め。降参するまで打拂へ。オヤそれが宜
 ○ユの字とセー 諭示と大層に觸れ出せど。觸れ出せど。誠三分に嘘七分。オヤ法螺もある。
 ○エの字とセー 英雄ろろひの日本國。日本國。敵をくぢける腕を見よ。オヤ恐るべし。
 ○ミの字とセー 寄り来るちやんく切拂ふ。切はらふ。大根切るより猶ほ易し。オヤ怖いみど

大日本流節

●ラの字とセー 亂暴極まる支那の兵。支那の兵。軍律なんぞは更になじ。オヤ出たら目だ。
 ○リの字とセー 利口ぶりたる袁世凱。袁世凱とうく失敗り首縊る。オヤお氣の毒。
 ○ルの字とセー 類は友とは云ひながら。云ひながら能くも集めた意氣地ふじ。オヤ困まつたね。
 ○レの字とセー 列も正しく整々と。整々と。凱歌唱へる日本兵。オヤ祝すべし。
 ○ロの字とセー 勞して功なき李鴻章。李鴻章。獨

大日本流行節

りくよく大頭痛。オヤ腕を組む。

●ウの字とセー わるい處へフランスが。佛蘭西が。又も嚴しく談判す。オヤ大弱り。

○井の字とセー いやが應でも今度こそ。今度こそ。ベキンを渡さばやあるまいぞ。オヤ請取らう。

○ウの字とセー 餓死するより仕方なし。仕方なし。兵糧とられた支那兵士。オヤ目が廻る。

○エの字とセー あるいはと敵あがら。敵あがら。支那でも譽めてる日本國。オヤ隆參だ。

○チの字とセー 面白半分うち拂ふ。打ち拂ふ。支那の閉口の心地よや。オヤ面白や。

支那大日本流行節終
退治

○五十番いもへ

明治廿七年十月十六日印刷
 明治廿七年十月十九日發行



編輯兼
 印刷發行

町田宗七

東京日本橋區新右衛門
 町十番地

印刷所

町田活版所

東京日本橋區新右衛門
 町十番地

發賣元 扶桑堂

東京日本橋區新右衛門
 町十番地

大賣所

東京日本橋區三丁目
 全日本通
 全東京
 全神戶
 全大阪
 全京都
 全名古屋
 全福岡
 全札幌
 全仙台
 全青森
 全岩手
 全宮城
 全秋田
 全山形
 全福島
 全茨城
 全栃木
 全群馬
 全埼玉
 全千葉
 全東京

金谷仁兵衛
 大谷芳助
 上野三郎
 川口文藏
 井上英助
 辻口文藏
 山口文藏
 伊藤文藏

京都三條通西
 大坂淡路町
 全大阪
 全京都
 全神戶
 全名古屋
 全福岡
 全札幌
 全仙台
 全青森
 全岩手
 全宮城
 全秋田
 全山形
 全福島
 全茨城
 全栃木
 全群馬
 全埼玉
 全千葉
 全東京

大谷仁兵衛
 中川芳助
 中野三郎
 水谷文藏
 小島英助
 高橋文藏
 室戶文藏

總長岡田
 北高田
 上野三郎
 陸前田
 全大阪
 全京都
 全神戶
 全名古屋
 全福岡
 全札幌
 全仙台
 全青森
 全岩手
 全宮城
 全秋田
 全山形
 全福島
 全茨城
 全栃木
 全群馬
 全埼玉
 全千葉
 全東京

上野三郎
 重田芳助
 佐治榮吉
 相澤平助
 長崎吉田
 吉田芳助
 柳村正六



Tokyo Japan.

Nishonashiya. Fusodo.

ZOHAN

